

# 鹿児島県医師連盟 FAX ニュース

※会員の皆様へ 鹿児島県医師連盟編集・発行のFAXニュースです。医師連盟関係の情報を随時お送り致します。

編集・発行 鹿児島県医師連盟 TEL: 099 - 213 - 1011 FAX: 099 - 213 - 1012

## 拡大参院選対策会議

### 支援体制を強化

鹿児島県医師連盟(池田琢哉委員長、734人)は4月20日午後3時半から鹿児島市の城山観光ホテルで拡大参議院選挙対策会議を開いた。参院選挙まで残すところ3カ月となり、鹿児島選挙区で自民党公認の尾辻秀久氏を推薦、比例区で自民党公認の羽生田峻氏(日医副会長)を推薦している県医連が、選挙の支援体制を強固なものにしようとしたもので、県医連の執行委員、郡市医師連盟の役員、連盟会員、それに医療関係団体などあわせて100人が参加した。

選対会議では、最初に尾辻氏が登壇。「診療報酬のあり方は間違っている。技術を評価して、診療報酬に反映させなければならない。議席を得たら見直す。支持をお願いしたい」と訴えた。

このあと、池田委員長があいさつして、「両氏の支持強化のため、一人でもサポーターを増やして欲しい」と参加者に要請したあと、「今回の選挙は医師会の団結力と威信が問われている。組織が一つにまとまったので、なんとしても力を示したい」と強調した。

県医連の鉾之原大助常任執行委員は、選挙に関して「医師連盟がエンジン役を果たさねばならない。連盟の威信をかけた戦いでもあり、県医連だけではなく、他の医療団体にも参加をいただき、総力を挙げて戦う」と力説した。

引き続いて、事務局から今後の日程について説明があった。それによると、5月19日に「尾辻秀久と日本のあり方を考えるセミナー」がサンロイヤルホテルで開かれ、下旬には県医連の執行委員会が開かれる。6月1日には奄美医療フォーラム、7月17日に医療関係団体総決起大会(横倉日医会長出席)が予定されている。

参院選挙は7月4日公示、21日投票が有力。

会議の最後には国際医療福祉大学大学院の渡辺俊介教授が「医療情勢とTPP問題につい

て」と題して講演した。渡辺教授は規制改革会議に関して「混合診療解禁や株式会社の医療への参入、さらには外国人医師を認めることをやろうとしている。これらを阻止しなければならない」と述べた。またTPPに関して「果たして国民皆保険制度が守れるのかどうか。問題はアメリカが何を求めてくるかで、注視すべきだ。尾辻さんは必ず医療を守ってくれる。絶対国政に送らなければならない」と話した。

### おつじ秀久後援会発会式

7月の参議院議員選挙に自民党公認で鹿児島選挙区から立候補する尾辻秀久氏の連合後援会発会式が4月20日午後2時から鹿児島市の城山観光ホテルで開かれ、鹿児島県医師連盟など推薦団体から800人が参加、来るべき参院選挙での尾辻氏の当選を目指して戦うことを確認しあった。

この日連合後援会長に就任した県医連の池田琢哉委員長(鹿児島県医師会長)は挨拶のなかで「尾辻先生はがん対策法の制定や障害者自立支援法など弱者に光をあててこられた方です。日本人の心を持った方であり、大義に生きる方です。今度の選挙になんとしても勝って、政界に送り出しましょう」と呼びかけた。

森山裕自民党鹿児島県連会長は「尾辻さんは、故郷のために働きたいとの思いで、比例ではなく、選挙区を選ばれた。選挙を勝ち抜いて国民、県民の期待にこたえてほしい」と述べた。

続いて、元自民党幹事長の古賀誠氏が「この国は政治が貧困状態にあった。これでは国民は救われぬ。尾辻氏には政治の貧困を招くことのないよう国政の先頭に立ってほしい」と強調した。

最後に登壇した尾辻氏は「日本が危機的状況にあり、これからは、国民のために命をかけてもいいと思った。大義のために選挙を戦う。ご支援をお願いしたい」と決意を述べた。

(文責・医師連盟事務局)